

おねがいです

ぼくたちを
連れて帰らないで！



野生動物の幼獣やヒナ

毎年春から夏にかけて野生動物の子供や鳥のヒナの誘拐（誤認救護）が起っています。

特に鳥のヒナはまだ幼い顔つきや体のまま巣立をしてしまうので誘拐が多発してしまいます。

野生の鳥たちは巣立をした時点ではまだ上手く飛べずにいます。巣立をして沢山の練習を重ねようやく大空を飛べるようになります。それと同時に餌の獲り方や、外敵の存在などを親鳥から学んでいきます。

親鳥は自分のヒナの成長段階にあわせて自然界で生きていく術を教えていくのです。ノウサギやタヌキも同じです。それを私達が「かわいそう」と思ってしまい家に連れて帰ってしまうとこの子達は親と引き離されるだけでなく、自然界で生きていく術も得ることが出来なくなってしまいます。この時期に人間に育てられてしまうと何も知らないまま大きくなってしまい野生で生きていくのはとても厳しい状態になってしまいます。私達人間は仮にヒナや幼獣を大きく育てられたとしても、親と同じようにその動物の生き方を教えることは出来ません！

そして人間にもいえるように子供は親と一緒に暮らすのが一番ではないでしょうか！？

鳥のヒナが危険な場所や、目立つところにいたらそっと近くの物陰など目に付きにくいところに移動させて、その場を後にしてください。人間がその場にいると親は子供のところへ行くことが出来ません。野生動物からしてみれば私達も外敵の一種なのです。ヒナを見つけて心配するのは悪いことではありません。しかし心配しすぎてとった行動がヒナや幼獣の将来を左右してしまいます。手に取る前にその子にとって何が一番いいのかを少し考えてみてください。

ケガをしている？弱っている？判断に迷ったらまずは鳥獣保護センターにご相談下さい。

☆岡山県鳥獣保護センター☆

TEL:086-252-2131 (受付時間 9:00~17:00)